

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ふきのとう1丁目)

事業所番号	06		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームふきのとう		
所在地	山形県新庄市大字鳥越字駒場4519-2		
自己評価作成日	平成24年10月24日	開設年月日	平成18年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てのホームは家庭的で落ち着いた雰囲気があり、「その人らしく、家庭的で穏やかな日々を」と理念のもと、施設ではなく住まいとしての温かさを提供できるよう取り組んでいる。隣接した系列法人の新庄徳洲会病院や訪問看護ステーションとの連携を図り、ご利用者様が安心して暮らせる体制がとれている。又、同敷地内の有料老人ホームやサービスセンターとの連携も図られ、身体面に応じた必要な調整も可能である。一丁目と二丁目は渡り廊下で繋がっており、自由に行き来できる環境になっている為、スタッフ見守りのもとで運動や交流が日常的に行えるようになっている。職員の意識向上・ケアの向上に向け日々努力しており、より良いケアの提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度よりグループホームの増設が行われ、2ユニットの事業所となった。敷地内には有料老人ホーム、デイサービスセンターがあり一体となった運営がなされている。又、隣接して法人グループの新庄徳洲会病院もあり、医療面での体制は整っている。利用者の思いや、家族の意見、地域との連携について従来以上に進めるよう努力がなされており、サービスの質が向上しつつあり、今後が楽しみな事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 24 年 11 月 28 日	評価結果決定日	平成24年12月28日

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に理念を掲げ、毎朝の申し送りにて理念の唱和を行っている。今年度は新たに、ユニット理念を設け実践に向けて努力している。	本年度職員で話し合いを持ち理念の見直しを行った。「その人らしく」という考えを職員間で確認、ユニット毎に目標を作った。玄関に提示し家族にも知らせている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩や買い物等、日常的に行っている。地域の催しには可能な限り参加しており、事業所の催しにも地域の方へ参加のご案内をしている。	日常は散歩の時に地域の方と挨拶をかわしたり、散歩の時には缶拾いを行い、地域の方の為に車椅子の購入に結びつけようとしている。新庄まつりや収穫祭には地区の人達の訪問をうけている。	地域の方との関わりは確実に進展している、今後は地域の方とどのような連携をしていくか具体的に話を進め、地域との更なる関係作りを期待する。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を作成し、日常の様子や行事等の様子を伝えたり、催し物に参加して頂く中で、理解や協力をして頂いている。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施しており、近況報告や連絡を行っている。頂いた意見からサービスの向上につなげる検討を行っている。	2ヶ月に一度定期的開催されており、行政や地区の方の参加を得ている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて取組を伝えており、その他相談がある際は、訪問したり電話にて協力して頂いている。	運営推進会議に参加して頂いている.. 認定調査の為に事業所に訪問して利用者の様子を見ていますので、相談しやすい関係になっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	外出や帰宅願望が見られた際は、一緒に外に出る等、出来るだけ付き添って対応している。スタッフの人数が不足している時間帯など、安全確保の為に施錠する事があるが、その他は基本的に解放している。又、家族の強い希望もあり、1名ベットの柵を使用しているが随時解除の検討を行っている。	以前に利用者の転倒事故があり、一時玄関の施錠をしていた時もあったが、現在は職員が付き添い、施錠はしていない。法人内職員研修の年度研修計画の課題になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内外での勉強会に参加し、認識を深める努力をしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内外での勉強会に参加し、認識を深める努力をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の質問にお答えし、安心して納得して頂けるよう、説明に努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告をしたり、玄関に意見箱を設置し意見や要望を聞きやすいようにしている。法人としてはアンケートを実施し、各施設へ反映させている。	法人として利用者家族へのアンケートを実施して、家族の意見を吸い上げる努力がなされているが、事業所としての課題にまでは結びついていない部分もある。又家族へのフィードバックもまだ不十分と思われる。	
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	付きに一回の全体会議や朝のカンファレンスにて、意見交換したり、随時連絡ノートにて提案や情報交換できるようになっている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートや自己評価表の提出等を行っている。会社として、給与の見直しも随時行われている。		
13	(7)	職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は全職員に回覧し、希望する研修を受講できるようにしている。施設内勉強会として、職員全員が勉強会を分担して実施している。徳洲会グループ内の勉強会にも参加できるようになっている。	法人全体の研修に参加すると同時に、事業所内においても、職員が課題を分担し、内部研修を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	村山地区ブロックGH連絡協議会や、最上地区GH連絡協議会に定期的に参加し、情報交換や交流を図っている。GH間での交換研修も実施できている。	GH協議会の村山地区ブロックの研修や最上地区の協議会にも定期的に参加して情報交換している。又交換実習にも参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問・面談で情報収集し、不安の軽減に努めている。新しい環境に慣れて頂けるように、環境作りや他者との関係作りにも配慮している。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問・面談をし、不安や要望等を聞き、家族のサポートにも力を入れている。いつでも相談しやすいように、信頼関係作りに努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に集めた情報の中から、暫定ケアプランを作成し、必要なケアの提供に努めている。又、状況に応じて他のサービスの紹介等も行っている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の生活を把握し、過ごしやすい環境を提供しながら、家庭で行う事を一緒に行えるように心がけている。出来る事を役割として持って頂き、協力して生活している。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	過去の暮らし方、接し方等を、家族から聞き取り支援している。常に、家族と一緒にケアの方向性を考える働きかけを行っている。			
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で馴染みの場所へ行ったり、馴染みの行事を生活の中に取り入れたり、可能な限り面会をお願いしたりと心がけている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や相性等を把握し、良好な関係が築けるよう配慮したり、孤立しないよう働きかけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中など、家族の意向を確認しながら支援を考えるなど、これまでの関係性を大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望や意向を探っている。意思疎通が難しい方は、表情や仕草から探るようにしている。	職員の記録からケアマネージャーが利用者の思いや希望を取り上げている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの記入を家族より協力して頂き、生活歴や過去の情報を把握し、ふきのとうでの生活につなげている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックで健康状態を把握し、日常の出来事や会話を、個々のケース記録にて共有に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一回のケアプランの見直しと評価を行い、必要なケアを提供できるよう努めている。本人や家族の意向を反映させている。	モニタリングは3ヶ月に1回評価して目標の見直しを行っているが1ヶ月1回は利用者、家族の意向も確認し計画を見直しが望まれる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケアプランに沿った記録を心がけ、本人の言葉や表情、行動などを、個々の記録に残し、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、その都度調整を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院が協力医療機関になっており、すぐに受診できる体制になっていると共に、月に一回の訪問診療が行われている。その他の医療機関においても、家族と連携しながら受診対応している。	月1回往診、デイサービスの看護師と連携している。24H対応できる体制は出来ている。徳州会以外の通院は基本的には家族対応である。家族の都合がつかない時は事業所に対応している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に一回の訪問看護にて健康面のサポートをして頂いている。その他、いつでも電話にて相談できる体制になっている。又、同敷地内の有料老人ホームやデイサービスの看護師とも連携が図られ、常時相談しながら対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、出来る限り継続したケアが行われるよう伝えている。入院中は、可能な限り面会に行き、面会時や電話にて状況を確認しながら、早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ここ一年看取りのケースは無かったが「重度化した場合における対応にかかる指針」を定め、利用契約時に説明している。	「重度化した場合における対応にかかる指針」は入所時に説明、同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回、徳洲会病院より講師を招きBLS勉強会を実施し訓練している。その他、緊急時の対応についても確認し合っている。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成、緊急連絡網の作成、日中想定・夜間想定での避難訓練を実施している。春の避難訓練では、運営推進会議を巻き込み、新庄市役所や包括センター、家族にも実施状況を見て頂けた。又、初めて地域の消防団の方にも見て頂く事ができた。	7月に避難訓練を実施、12月に夜間想定での訓練を予定している。春の訓練時には運営推進会議の参加者にも見て頂き意見をいただいた。	今年度は消防団の方に来ていただいたが、見学だけではなく今後は更に役割を明確に話し合いより積極的な参画に結び付けていくことが望まれる。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや気づかいには、その都度職員間で確認しながら対応を心がけている。	研修でプライバシーについて教育、職員間でも話し合いを持ってはいるが、一部では大きな声で話している光景も見受けられる。利用者がどのように感じるかについては、更に職員間で話し合いを進めることが望まれる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や考えを引き出す声掛けを行い、本人の希望を導けるように努めている。必要時は幾つかの選択肢を提案し、自分で決定できるように促している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や、その日の状況・体調に応じて外出や室内での余暇活動など、その人の希望を確認しながら支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着替えは本人と一緒に選び支援している。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、調理、盛り付けなど出来る事を一緒にして頂いている。又、月に一回のお寿司の日や、お弁当の日などを設けており、楽しみにつながっている。	メニュー及び食材は業者に依頼してしており、一部利用者の意見を取り入れてもらっている。月1回は外食を行っており、利用者はこれを楽しみにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時の水分補給の他に、状況や気温に応じて水分を提供している。又、摂取量が安定しない方に対しては、高カロリーゼリーや好みの物の用意、粥や刻み食への変更等で配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、うがい薬を用いた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や、スタッフ間での声掛けにて排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導にて、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を利用しており、積極的におむつはずしをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して状況把握している。朝の水分、牛乳、乳酸菌飲料、漢方茶などで促せるように努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定は決まっているが、その日の体調や希望に応じて柔軟に調整している。週2回の予定であるが、希望者には三回入れるように調整している。湯の温度も好みに応じて対応している。	月～土で週2回の入浴が基本となっている。希望すれば3回入浴も可能となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理強いする事なく、その方に合った時間に入床して頂いている。又、日中の過ごし方にも気を配り、夜間の良眠につなげている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬の情報を綴っており、何か変化などがみられた時は電話にて相談している。日付、朝昼夕、名前を声に出して確認しながら服薬の支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしながら、一人一人の出来る事を役割として持って頂き生活している。又、楽しめる事を取り入れた生活を心がけている。			
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物など外出の機会を多く作っている。毎月行事を設け、普段行けない場所へ行けるよう配慮している。又、家族の協力もあり、外出や外泊をされる方もいる。	家族の協力で外出、外泊する利用者もいる、日常は駐車場の散歩、ドライブの時の外食、日帰り温泉(観音湯)等月1回は計画している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームにて預かっているが、ある程度管理が出来る方には、高額でないお金を自分で持って頂いている。訪問販売や買い物の日を設け、好きな物を購入して頂けるよう支援している。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて対応している。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外にはグリーンカーテンやプランターのお花、ミニトマト等の栽培で皆さんの楽しみ、癒しの一つとしての環境になっている。季節感ある貼り絵などの壁画を作ったり、写真を掲示したりと、会話のきっかけや交流を図れるようにしている。	にぎやかに飾られた共有スペースである。廊下には行事の写真が飾られ、展示会場を思わせる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室、玄関前のベンチなど、選べる空間があり、好みの場所ができています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みの物を持参して頂き、これまでと継続した居心地の良い環境作りに努めている。又、写真などを飾ったりと、家族との思いでも大事にしている。	できるだけ馴染みの物を持ちこんで、頂いているようで、その人らしい工夫された居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げにならないように、整理整頓を心がけ、安全で自由に移動できるように配慮している。		